

第6学年3組 体育科学習指導と評価の案

平成17年6月15日(水) 第2校時(9:25~10:10) 授業者: 脇田 誠(体育館)

1. 単元名 ボール運動「ソフトバレーボール」
2. 本時の目標
 - カバーし合うことが大切だとわかり、ボールの方向へへそを向け、1歩踏み出してボールをつなぎ、相手コートへ返すゲームができる。
 - 練習・ゲーム・反省会などお互いを認め合い、励ましの声をかける仲間になることができる。
3. 本時の評価規準
 - 【技能】 ボールの方向へ体(へそ)を向けて1歩踏み出して、カバーをすることができる。
4. 子どもづかみの具体
 - 【学ぶ意欲】 楽しんで活動することはできるが、勝ちたいという欲求や仲間と共によくしようと願い、進んで関わろうとする意欲が弱い。
 - 【学ぶ力】 グループ課題を確かに持ち、意識して練習できるが、見合い・教え合いの仕方や練習方法を工夫する力や評価する力が弱い。
 - 【学び力】 ボールを「突く」動きが十分に身に付いていない子が多く、また素早く動き出す構えやボールの動きを予測する力が弱い。
5. 本時の展開 (5/10 時)

過程	主 な 学 習 活 動	研究テーマ具現のための手立て																				
計 画	<p>1 準備・補助運動</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">Aコート</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">Bコート</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">Cコート</div> </div> <p style="text-align: center;">バドミントンコート3面 高さ185cm 4号軽量ボール 5人×7G 4人×1G (39人8G編制)</p>	<p><基礎技能定着のための反復練習>【研究内容3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーバーパス、アンダーパスの練習を位置づけ、確かな基礎技能の定着を図る。 																				
	<p>2 全体計画会・G計画会</p> <p>前時の姿をVTRで見て、うまくできるようになるポイントをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【課題】</p> <p>○カバーし合ってボールを真上に向けてつなぎ、相手コートへ返そう</p> <p>●仲間のよい姿を認め合ったり、大きな声で励ましの声をかけ合ったりしよう</p> </div> <p style="font-size: small;"><技術ポイント></p> <p>①膝・足首を柔らかく曲げて構え、動かす ②ボールの方向へへそを素早く向ける ③ボールに対して1歩踏み出す</p>	<p><切実感のある課題設定の工夫>【研究内容3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時のゲームの様相をVTRやゲーム記録によって短時間で効果的につかませ、課題化につなげる。 <p><課題把握における教師の指導・援助>【研究内容4】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その子に合った課題が持っているか、またG課題とのつながりが理解できているかを確認し、その子に作戦板を使ってポジションやカバーの動きを示させ、動きのイメージを持たせる。 																				
展 開	<p>OG課題、個人課題をネームプレートで明示し、交流して互いに確かめ合う。</p> <p>3 前半練習</p> <p>○グループで選択した練習をする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 円陣パスでオーバー・アンダーパスとカバーの動きを作る練習 ② コート内でしが投げ入れたボールをつなげて返す練習 ③ 勝ち残りゲームでの実践的な場でのカバー練習 <p style="font-size: small;"><練習2></p> 	<p><つまずきに応じた教師の指導・援助>【研究内容4】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カバーの素早い動きができない →①コート内でボールの位置に対する体の向きや動き方について自在ボールを使って確かめる →②ボールがどちらへ動くのかを予想させ、それに応じて次の動きの体勢を作らせる。 →③膝を曲げ、腰を低くして構えさせる →④「OOさん」「カバー」などの声を素早く大きな声でかけ合うことの有効性を話す 																				
	<p>4 中間研究会</p> <p>○うまくできるようになった仲間とGの関わりを認め合う。</p>	<p><中間研究会での形成的評価>【研究内容4】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うまくできるようになった子の取り組みを価値づけ、またできるようにならない子の原因を明らかにして練習方法の改善を指示する。 																				
評 価	<p>5 後半練習(ゲーム)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center; font-size: small;"> <thead> <tr> <th></th> <th>Aコート</th> <th>Bコート</th> <th>Cコート</th> <th>審判</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>1G-2G</td> <td>3G-4G</td> <td>5G-6G</td> <td>7G・8G</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>7G-8G</td> <td>1G-5G</td> <td>2G-6G</td> <td>3G・4G</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>3G-5G</td> <td>4G-7G</td> <td>6G-8G</td> <td>1G・2G</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ゲーム中に作戦タイムを必要に応じてとり、技術ポイントを確かめ合う。</p>		Aコート	Bコート	Cコート	審判	①	1G-2G	3G-4G	5G-6G	7G・8G	②	7G-8G	1G-5G	2G-6G	3G・4G	③	3G-5G	4G-7G	6G-8G	1G・2G	<p><集団の学び合いへの指導・援助>【研究内容4】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カバーし合って動いているGや仲間の動きを認め、大きな声で賞賛して自信を持たせる。 ・声がかかけあえずムードが沈滞しているGに対して、サイドコーチをして、声かけの仕方を示す。
		Aコート	Bコート	Cコート	審判																	
①	1G-2G	3G-4G	5G-6G	7G・8G																		
②	7G-8G	1G-5G	2G-6G	3G・4G																		
③	3G-5G	4G-7G	6G-8G	1G・2G																		
<p>6 G反省会・全体反省会</p> <p>○ゲームぶりからカバーし合ってボールをつなぐことができたかを振り返る。</p> <p>○声をかけ合う仲間になることができたかを振り返る。</p>	<p><学び得た力の教師による評価>【研究内容4】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲームぶりやゲーム記録からだれのどの動きがよかったかを具体的に価値付け、次時の方向付けをする。 																					

